

いちき串木野市地域学校協働活動

学校応援団だより

～できることを できるときに できるところから～ No. 4-10(206)

＝みんなで支える学校 みんなで育てる学校＝ 令和4年11月16日

いちき串木野市地域学校協働活動事業本部

芸術と食欲の秋です。今回は、生冠中3年生が一人一人思いを込めて取り組んだ「書写」と多くの人から支援して頂いて出来たお米を用いた川上小の「餅つきの風景」をお届けします。

書写：生冠中



さあ、姿勢をただして、集中して書きます！



ここは、しっかりとめてね！

3年生12名が10月7日に、今の自分の思いを表す文字や現代を示す文字を書きました。指導は、八牟禮先生にして頂きました。完成品は、文化祭で掲示するとのことです。

12名が思いを込めて書いた文字は「向」、「凜」、「歌」、「力」、「入」、「透」、「狩」、「初」、「変」、「輝」、「包」、「成」です。このひと文字に、3年生のどのような思いが込められているか、大変興味深いものです。進学のこと、友達のこと、世界平和のことなどが込められているかも知れません。

八牟禮先生は、文字だけでなく、書く姿勢も一人一人丁寧に指導されました。

書き終わると、八牟禮先生に見てもらい、一字一字アドバイスを頂き、さらに練習を重ねました。

「はねるところ」、「とめるところ」、「はらい」、「書き始めや最後の力の入れ方」についてアドバイスを頂きました。

また、「集中を切らさないで、書き上げること」がうまくなるコツとのことでした。

また、担任の柳田先生から「字は一生もの」とのこと、気持ちを入れて書き、「書いたものを宝にしなさい」とのアドバイスがありました。

この3年生は、いつも雰囲気良く、笑顔の絶えないクラスです。この子らが秘めた一字への思いを、是非、覗いてみたいと思いました。

餅つき：川上小

全学年が参加し、10月21日に脱穀したもち米で、11月2日に餅つきをしました。

最初、校長先生から「皆さんが、努力してできたお米です。これを作るのに色々な人が協力してくださいました。感謝の気持ちを忘れない、心豊かな人になってください」と挨拶がありました。

もち米6升を餅つき機に入れ、餅をつきました。餅は、餅きり機でちぎり、子どもたちに2個ずつ渡されました。子どもたちは、トレーに餅取り粉をひき、餅を丸めました。

餅つき授業の最中に地震のアナウンス（訓練）があり、子どもたちは机の下に隠れました。訓練終了後、教頭先生から、アナウンスがあるときは静かに聞いて、速やかに避難するようにとの注意がありました。

訓練後、子どもたちに「地震、こわかったね？」と聞くと「先生が怒った時の方が怖いよね」とユーモアある返事が返ってきました。

途中1,2年生は餅を丸めながら、わざと餅取り粉を顔につけて楽しんでいる子どももいました。美しく丸めた餅は、醤油やきな粉をまぶし、おいしそうに食べていました。

推進委員の田淵明さんによると、「天日干したお米で作る餅は、粘り気と甘みがある」とのことです。

家庭での餅つきについて子どもに尋ねると、「親戚が集まり、臼と杵で餅をついている」と教えてくれた子どももいました。忘れかけていた昔の風景が思い出されました。

最後に、飲んだペットボトルの処理方法について担任の先生から説明があり、ラベルとペットボトルは別々の袋に入れ、分別するようにとの指導がありました。

ここでも地球環境にやさしい取り組みが行われていました。



2個ずつ持って行って、丸めてください！



きれいにまるめました。いただきます！

連絡先＝市来庁舎3階 市教育委員会社会教育課

(Tel 21-5128) (FAX 36-5044) / ご意見・質問・相談もどうぞ

統括コーディネーター (串木野地域 濱田俊浩) (市来・生福地域 有元 操)

